

第5学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『日本の地形と気候』

(教科書：『小学社会 5 上』 p. 14～19／学習指導要領：内容（1）イ）

2. 小単元の目標

国土の地形や気候の様子を概観し、人々の暮らしとの関わりやその特色について捉えさせる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
国土の自然の様子に関心をもち、それを意欲的に調べ、国土の地形や気候の特色について考えようとしている。	国土の自然の様子から学習課題を見いだして追究し、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることについて思考・判断したことを言語などで適切に表現している。	国土の地形や気候の様子について、基礎資料を活用して、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

日本は春夏秋冬とそれぞれの季節があり、季節の変化によって、周辺の環境や生活様式が変わる。児童にとっても四季の変化は、服装や放課後の行動等に大きな影響を与えており、その違いも身近に感じやすい。本小単元の導入では、四季の様子や移り変わりによって変化することなど、自分の体験の想起から学習内容へつなげることで、学習へ意欲をもたせやすい。また、児童は日常生活の中で各種メディアの情報に触れることも多く、映像や画像等を活用することで、人々の暮らしとの関わりやその特色について考えさせることも効果的だと考える。

(2) 教材について

本小単元では、日本の地形や気候の特色について、自分たちの生活やさまざまな資料を関連づけながら、特色をつかんでいくようにしたい。四季の変化や気候など、それぞれの季節で暮らしにどのような変化があるかを考えさせるようにしたい。

教科書には、日本の地形や気候の概要がつかめる資料が掲載されている。山脈や平野などの名称を書き込ませて地形の分布を捉えさせたり、雨温図と対比させて各地の気候の違いを捉えさせたりするとよい。また、これらの資料から読み取れたことを白地図にまとめさせる活動も効果的である。

日本の国土の地形や気候の特色を自由に言い表す活動を設け、思考・判断・表現の観点の評価に生かすとよい。南北に細長い国土の形と季節の変化の違いを関連づけて表したり、季節風の影響と

冬の気候の違いを関連づけて表したり、学習したことを生かして自分なりの表現が考えられているかを見取るようにする。

(3) 指導上の工夫・留意点

本小単元では、地域の気温と降水量を同時に示すグラフである「雨温図」が多く出てくる。この後の学習でも、頻繁に出てくる資料なので、丁寧に読み取り方を指導したい。複数の雨温図を比較させるには、なるべく横に並べて提示し、目盛りを揃えて比較しやすいように配慮するとよい。

5. 小単元の指導計画（総時数4時間）

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (つかむ)	日本の国土には四季の変化があることや、地域や土地の高さによって気候に違いがあることを捉え、日本の地形や気候の特色について調べる意欲をもつことができるようにする。	○日本の地形や気候について知っていることを発表し合う。 ○四季の変化の様子を考える。 ・教科書の写真や自分の体験から、気がついたことをノートに書く。 ○季節によって自然や暮らしの様子にどのような違いがあるか話し合う。 ○地形による気候の違いを資料から読み取り、わかったことをノートにまとめ、これから調べる単元の課題を設定する。 日本の地形や気候には、どのような特色があるのだろう。	◇気候の「特色」の意味は、わかりやすい事例（熱帯地方や寒冷地等）を示しながらつかませるとよい。 ◆日本の国土ではさまざまな自然の様子が見られることに気づき、国土の地形や気候の特色について興味をもって調べようとしている。（関・意・態／発言） ◆国土の地形や気候の特色について調べる学習問題を考え、表現している。（思・判・表／ノート）
② (調べる)	地図帳や写真資料を活用して日本の山脈や山地、平野、川、海岸線などの様子を調べ、国土の地形の特色について捉えることができるようにする。	○「さまざまな地形の様子」の図を見て、気づいたこと、思ったことを発表する。 日本の地形には、どのような特色があるのだろう。 ○意見を交流し合い、山脈や山地、平野、盆地などの地形の違いを捉える。 ○地図帳を活用しながら、日本の代表的な山脈や山地、平野、川の名前を調べる。 ○写真や地図などの資料をもとに、日本の国土の地形の特色について調べ、気づいたことやわかったことをまとめる。	◎「さまざまな地形の様子」(教科書の図) ◎地図帳 ◆教科書の地図資料や地図帳から、国土の地形についての必要な情報を読み取っている。（技／観察・ノート） ◆地図や写真資料をもとに、日本の国土の地形の特色を捉えている。（知・理／発言・ノート）

③ (調べる) 【本時】	日本の気候区分図や各地の雨温図等の資料を読み取ることを通して、国土の気候の特色について考えることができるようにする。	○日本各地の雨温図と気候区分図から気がついたことや思ったことを発表する。 日本の気候には、どんな特色があるのだろう。 ○雨温図や気候区分図を読み取り、それぞれの地域の気候の特色をつかむ。 ○夏と冬の季節風を表したイラスト等の資料から、季節風や梅雨、台風などがもたらす日本の気候への影響について考える。 ○日本の気候の特色について、考えたことを発表し合う。	◎日本海側と太平洋側の雲の違いがわかる写真（北アルプス等）や映像があるとよい。 ◆雨温図や気候区分図、イラストなどから、日本各地の気候の特色を、季節風の影響も関連づけて読み取っている。 (技／観察・ノート) ◆雨温図や気候区分図等の資料をもとに、日本の気候の特色を捉えている。 (知・理／発言・ノート)
④ (まとめる) (深める)	日本の地形や気候の特色、地域ごとの自然条件の違いについて、さまざまな表現を考えることができるようにする。	○日本の国土の地形や気候の特色について、さまざまな表現を考え、ノートに書き表す。(まとめる) ○まとめたものを話しあったり交流しあったりしながら、まとめたものにつけ足したり、内容を広げたりする。(深める)	◆調べたことをもとに、日本の国土の地形や気候の特色について考え、さまざまな表現を用いて表している。 (思・判・表／発言・ノート)

6. 本時の指導（第3時）

(1) 本時のねらい

日本の気候区分図や各地の雨温図等の資料を読み取ることを通して、国土の気候の特色について考えることができるようにする。

(2) 本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
15	○前時までの学習を振り返る。 T：日本の地形にはどんな特色がありましたか。 C：山地や山脈が多い。 C：険しい山脈が国土のまん中に連なっている。 C：川の流れが急だ。	◇日本の中央に山脈が連なっていること、「山脈」「山地」「平野」といったキーワードを確認する。

	○気候区分図や各地の雨温図を見て、地域による気候の違いについて考える。 T:「日本の気候のちがひ」の図を見て、気がついたこと、思ったことを発表しましょう。 C:雨の多いところと少ないところがある。 C:夏と冬で、雨の量が違う。 ○学習課題を確認する。 日本の気候には、どのような特色があるのだろう。	◇グラフをじっくり読み取る時間を確保する。 ◇ノートに書かせてから発表させるとよい。 ◇気候の「特色」の意味は、わかりやすい事例（熱帯地方や寒冷地等）を示しながら確認する。
15	○夏と冬の季節風を表したイラスト等の資料から、季節風や梅雨、台風などがもたらす日本の気候への影響について考える。 T:教科書の文章や図、イラスト、資料集などを使って、日本の気候の特色を調べてみましょう。また、今までの学習や自分が見たり聞いたりしたことも活用しましょう。 C:今まで学習した日本の地形の特色も関係がありそうだ。 C:冬は、中央にある山脈に季節風がぶつかって、日本海側に雪を降らせているんだ。 C:沖縄に台風が多いとニュースで見たよ。	◇教科書「学びのてびき」で雨温図の見方を確認する。 ◎教科書・資料集 ◎気象庁ウェブサイトの衛星画像や、日本海側と太平洋側の雲の違いがわかる画像なども活用するとよい。 ◆雨温図や気候区分図、イラスト等から、日本各地の気候の特色を、季節風の影響も関連づけて読み取っている。 (技／観察・ノート)
15	○日本の気候の特色について、考えたことを発表し合う。 T:調べたことや話し合ったことをもとにして、日本の気候にはどんな特色があるか、発表しましょう。 C:日本海側は冬に雪が多く、太平洋側は少ないです。日本の中央に連なる山地と季節風の影響で、日本海側に雪がほとんど降ってしまうからです。 C:梅雨や台風で多くの雨が降ったときは、自然災害が起こりやすいです。これは、日本の川が急であることとも関係があると思います。	◆雨温図や気候区分図等の資料をもとに、日本の気候の特色を捉えている。 (知・理／発言・ノート)

7. 備考

日本海側と太平洋側の降水量の違いの理由は、児童には理解しにくい。ウェブサイト『NHK for School』等の動画資料を活用するのもよい。